



今回の発見!

茅ヶ崎の郷土芸能 その2

今回は、17年11月15日号で郷土芸能を紹介して以来、2回目の郷土芸能の紹介です。

長い間、多くの地域の人々に親しまれ、受け継がれてきた郷土芸能は、今日行われる機会が少なくなっています。郷土芸能は地域住民の生活の伝統とその歴史の意味を伝える大変貴重なものといえます。

そこで、例年の「郷土芸能大会」では、多くの市民のみなさんに鑑賞していただき、その重要性を認識してもらい、後世に伝える試みが続いています。

郷土芸能大会は、毎年11月末頃に開催しています。昨年も11月26日に市民文化会館で開催され、14演目が披露されました。小・中学生や、各芸能の保存会などのみなさんにより披露されます。演目はどれも茅ヶ崎の郷土色があふれるものばかりです。

今年は、幾つかの郷土芸能に触れる機会を持ってみたいかがでしょうか。

【生涯学習課文化財保護担当】

おど おか ざき おど ばか踊り(岡崎踊り)



この踊りは、別名「岡崎踊り」といわれていますが、その名前の由来はわからないそうです。古くから円蔵では「馬鹿ばやし」で知られ、豊作を祈る里神楽のひとつだったようです。

低い鼻と福々しい笑顔の「オカメ」と口を尖らせ火を吹きおこすおどけた顔の「ヒョットコ」、愉快な顔の「道化」など、こっけいな面を付けて笛や太鼓に合わせて、愉快地型にとらわれずに踊ります。

せり ざわ ばん うた 芹沢ササラ盆唄

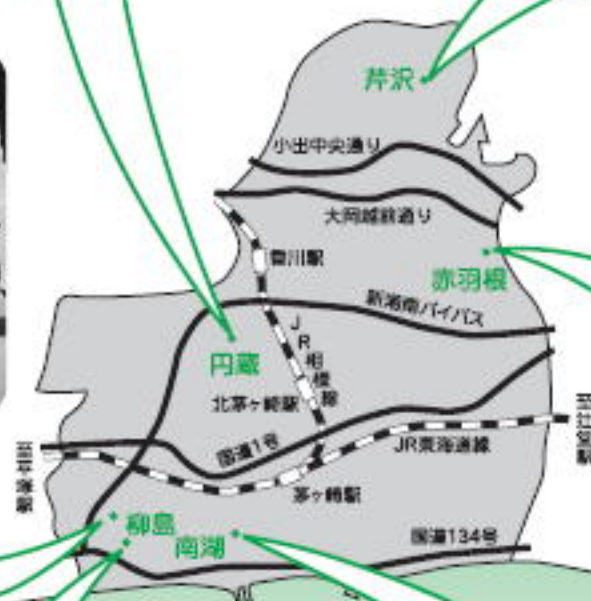
盆踊りは、単調でもの寂しさを誘う竹の素朴な楽器「ササラ」で伴奏して輪になって踊りました。芹沢が、かつて小出村の一部であった当時の村人にとって、年に一度の楽しい行事でした。写真の中で、輪になって踊る人たちが手にしているのが、「ササラ」です。



やなぎしま たいりょう ふな あ うた 柳島大漁船上げ唄



かつて、柳島や南湖の沿岸にはアジやイワシの大群が押し寄せて、浜が大変にぎわっていました。船上げ唄は、魚で一杯になった船を浜に引き上げるときにうたわれました。



かみ あか ぼ ね じん く 上赤羽根甚句

浜降祭などでみこしを担ぐときにうたいます。レコードに収録されたこともありました。



やなぎしま お ざ しき じん く 柳島御座敷甚句

柳島では、結婚式や上棟式などのめでたい宴席では必ず、手拍子や皿を叩いて唄いました。

漁師が漁のあと「沖上がり」といって船元のところで宴会を開くときにも必ずうたわれました。三味線にあわせやすい節回しです。

残念ながら現在の宴会では、カラオケが中心で、この甚句をうたう機会は少ないようです。



なん ご もち つき うた 南湖餅つき唄

もちつきは、白の中の蒸したもち米が飛ばないように、はじめは立ぎねでこね回しました。その調子を合わせるためにうたうのがもちつき唄です。現在では、正月用のもち、店で購入する家庭がほとんどですが、昔は、正月用のもちつきは近隣や親せきが一緒に楽しみながら行いました。何軒ものもちをつくので、朝早くから夜遅くまでかかりました。

